文科省（JST）原子力基礎基盤研究イニシアティブ（2012 年度-2014 年度）

「原子力産業への社会的規制とリスク・ガバナンスに関する研究」

（原子力リスク・ガバナンス研究）

福島県いわき市・双葉郡調査報告

学校法人早稲田大学

2013 年 10 月

1.　日時

2013 年 10 月 12 日（木）～10 月 13 日（金）

2.　調査対象地域：福島県いわき市および双葉郡富岡町

双葉郡富岡町富岡駅周辺

いわき市小川町いわきコミュニティ電力

浜風商店街

久之浜津波被災地区

3.　調査目的

主な目的は、以下の 2 点である。

（1）原子力リスク・ガバナンス研究における対象地である福島県いわき市・双葉郡の現況調査を行う。

（2）現地の市民団体であるいわきおてんと SUN 企業組合の震災復興スタディツアーを視察する。

原発リスクに関する重要な行為主体者（アクター）として、地方自治体や地域社会の存在に注目する必要性がある。原発に関するリスク認知の変化や復興政策への提言を含めて、より包括的なリスク・ガバナンスの枠組みについて研究をおこなうため、福島県いわき市および双葉郡富岡町の現状について調査を実施した。

4.　参加者

松岡俊二：早稲田大学アジア太平洋研究科教授

師岡愼一：早稲田大学先進理工学研究科教授

勝田正文：早稲田大学創造理工学研究科教授

荻野亮：早稲田大学アジア太平洋研究科　松岡研究室所属

小澤俊一郎：早稲田大学先進理工学研究科教授　師岡研究室所属

水谷拓人：早稲田大学先進理工学研究科教授　師岡研究室所属

中川唯：東京工業大学社会理工学研究科　蟹江研究室所属

小嶋里奈：東京工業大学社会理工学研究科　上田研究室所属

斉藤悠：早稲田総研イニシアティブ

（他）

5.　研究協力者

吉田恵美子：いわきおてんと SUN 企業組合代表

島村守彦：いわきおてんと SUN 企業組合事務局長

里見喜生：いわきおてんと SUN 企業組合理事

6.　いわきおてんと SUN 企業組合の概要

いわきおてんと SUN 企業組合は、東日本大震災により大きな被害を受けた福島県いわき市において、以下の 3 つの復興まちづくりを行っている。2012 年度からオーガニックコットン、復興スタディツアー、コミュニティ電力の市民主体型まちづくりプロジェクトを実行している。震災前から、福島県いわき市を中心に NPO や地域づくり活動

を行ってきた 6 名が中心となり、地域づくりを実践していくために「いわきおてんと SUN プロジェクト」を立ち上げ、2013 年 2 月に法人格である企業組合を取得した。

名称	いわきおてんと SUN 企業組合　Iwaki OtentoSUN Enterprise Cooperative
所在地	〒972-8321 いわき市常磐湯本町三函 208（古滝屋 2 階）
主なメンバー	代表理事　吉田恵美子（NPO 法人ザ･ピープル　理事長） 理事　島村守彦（NPO 法人インディアン・ヴィレッジ・キャンプ　副理事長） 理事　里見喜生（元禄彩雅宿『古滝屋』若旦那、NPO 法人ふよう土 2100　理事長） 理事　関野豊（有限会社ソニックプロジェクト代表取締役、NPO 法人ふよう土 2100） 理事　金成清次（おてんと SUN ファーム農場長、写真家） 監事　菅野友美（有限会社 木紅木オーガニック企画部マネージャー）

7.　いわきおてんと SUN 企業組合プロジェクト

7.1.　オーガニックコットン

ふくしまオーガニックコットン・プロジェクトは、2012 年に始まった。津波の被害を受けた沿岸部の状況から、塩害にも強い綿を、有機栽培で育て、収穫し、製品化をすることで地域活性化や雇用機会を作り出すことを目的としている。プロジェクトには、地域内外のボランティアが参加している。2012 年には、市内 15 か所、約 1.5ha の栽培地から綿を約 300 kg 収穫した。2013 年は栽培地、栽培面積がいわき市以外の広野町、二本松市、南相馬市、会津美里町に拡張し、合計 30 箇所、3ha となり約 2 倍となった。

7.2.　復興スタディツアー

復興スタディツアーは、参加者が被災地いわきの姿を体感し、学び、考えるツアーである。ツアーの訪問先は、津波の被災地である豊間・薄磯地区、原発周辺区域への訪問、浜風商店街、オーガニックコットン畑、いわき市民電力設立地が主であり、参加者に合わせて行程をプログラムできる。

7.3.　コミュニティ電力

地域再生のひとつの手法として、「いわきコミュニティ電力」事業の実現に向け、体制やしくみを構築している。いわきコミュニティ電力 in 小川町が 2013 年 4 月に竣工、売電を開始した。主な事業として、市民参加型太陽光発電所の建設サポート、技術指導を行っている。教育的観点から、「自然エネルギー学校」としてお出かけ型教室を開く。さらに、独立型、非常用電源システムの開発・製造・システムの販売、施工を請け負っている。将来的には、いわきコミュニティ電力は、他プロジェクトや地域産業と連携していく予定である。

8.　福島県いわき市・双葉郡の視察概要

見学は復興スタディツアーを軸として、二日間にわたり行った。一日目は、福島県いわき市湯本駅を出発し、車にて、双葉郡富岡町富岡駅周辺の視察を実施した。富岡駅は震災当時のままであり、依然として復旧されていない。富岡町周辺は、放射性物質の除染作業により、発生した汚染物質入りのビニールが積まれていた。また、福島第一原子力発電所周辺の帰宅困難区域は、通行止めで立ち入りが不可能であった。二日目は、いわきおてんと SUN 企業組合による 3 つの復興まちづくりを中心に視察した。まず、いわき市小川町いわきコミュニティ電力の視察を行った。その際、いわきおてんと SUN 企業組合の島村さんより太陽光パネルの施行方法や余剰電力売電時の系統電力へ接続に必要な設備に関して説明を受けた。次に、津波被害を受けて移転した久ノ浜の浜風商店街を視察した。浜風商店街の店舗では震災時の津波の被災状況の説明を受けた。その後、久之浜津波被災地区を視察した。最後に、オーガニックコットン夏井ファームを視察し、いわきおてんと SUN 企業組合の吉田氏、栽培農家より、状況の説明を受け、綿の収穫も行った。

＜福島県いわき市・双葉郡の視察について＞

(1) 10 月 12 日（木）の視察内容

① 双葉郡富岡町富岡駅周辺地域の視察

富岡町は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故の影響で、役場機能を郡山市へ移転した。富岡町には福島第二原発が立地している。現在の富岡町は、帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域に指定されている。

無人の富岡駅の様子

富岡駅構内は、震災時の状態であり復興には程遠い

富岡町周辺の汚染物質は黒色のビニール袋に詰めた状態で積載されている

帰宅困難区域の通行止めの様子

(2) 10 月 13 日（金）の視察内容

② いわき市小川町いわきコミュニティ電力の視察

いわき市小川町いわきコミュニティ電力は、2013 年 4 月に竣工した。いわきおてんと SUN 企業組合の島村氏が中心となり、発電設備の計画から施工までを行っている。太陽光パネルの一部は市民が製作している。視察に際しては、島村氏より、太陽光パネルの施行方法や余剰電力売電時の系統電力へ接続に必要な設備に関して説明を受けた。

30kW の太陽光発電設備見学の様子

太陽光パネルには、作成者氏名が記載されている

③ 浜風商店街の視察

浜風商店街は、2011 年 9 月 3 日（土）、久之浜第一小学校敷地内に仮設店舗として開店した。浜風商店街は 11 店舗により構成される。浜風商店街の存在は、久ノ浜の震災の記憶や、久ノ浜コミュニティの持続するための象徴となっている。見学の際、商店街の店舗内にある久ノ浜ふれあい情報館にて震災時の被災状況や現在までの復興の状況について聞取り調査を行った。

④ 久之浜津波被災地区の視察

久ノ浜津波被災地はいわき市の北東部に位置し、古くから漁業が盛んであった。東日本大震災時は、地震、津波の他に火災によって多くの死者が出た地域であった。久ノ浜津波被災地区にかつて存在した商店街は、浜風商店街として移転した。

浜風商店街（仮設商店街）の様子

久之浜津波被災地区は住宅の跡が確認できる

⑤ オーガニックコットン夏井ファームの視察

2012 年に始まった有機栽培によるコットンは製品化まで行われており、2013 年現在、福島県内に 30 箇所の栽培地がある。オーガニックコットンの栽培地の一つである夏井ファームを視察した。視察時は、いわきおてんと SUN 企業組合の吉田氏から、ふくしまオーガニックコットンの特徴や収穫方法の説明をうけ、実際に収穫作業も行った。また、オーガニックコットンの栽培農家から、収穫の困難さや福島県内外のボランティアによる支援状況について聞取り調査を行った。

オーガニックコットンの栽培地

オーガニックコットンの収穫作業体験の様子

参考文献

(1) いわきおてんと SUN 企業組合：http://www.iwaki-otentosun.jp/いわきおてんと sun/ （2013 年 11 月 16 日アクセス）

(2) 双葉町：http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/4046.htm （2013 年 11 月 29 日アクセス）

作成者　早稲田大学大学院アジア太平洋研究科　松岡研究室・文科省原子力 PJ 研究補助者・荻野亮